

長岡工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	物質工学実験
科目基礎情報				
科目番号	0103	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験	単位の種別と単位数	履修単位: 5	
開設学科	物質工学科	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	5	
教科書/教材	実験テキスト配布			
担当教員	鈴木 秋弘, 小出 学, 赤澤 真一			
到達目標				
この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。 この科目的到達目標と、長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習教育目標との関連の順で示す。 ① 実験操作のフロー・チャートを作成し、スムーズな実験を目指す。収率、純度の計算を理解する20%(d3)。② 対象を通して、現象を化学反応式で表現する。実験方法、実験結果、考察をレポートにまとめる20%(d3)。③ 実験に使用する薬品・実験器具を理解し、溶液の調整法等を習得する20%(d3)。④ 物性測定の基本的操作方法を理解する20%(d3)。⑤ レポート作成法を習得する20%(d3)。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	実験操作のフロー・チャートを作成し、スムーズな実験を目指す。収率、純度の計算を理解している。	実験操作のフロー・チャートを作成し、スムーズな実験を目指す。収率、純度の計算を概ね理解している。理解する	左記に達していない。	
評価項目2	観察を通して、現象を化学反応式で表現する。実験方法、実験結果、考察をレポートにまとめることができる。	観察を通して、現象を化学反応式で表現する。実験方法、実験結果、考察をレポートに概ねまとめることができる。	左記に達していない。	
評価項目3	実験に使用する薬品・実験器具を理解し、溶液の調整法等を習得している。	実験に使用する薬品・実験器具を理解し、溶液の調整法等を概ね習得している。	左記に達していない。	
評価項目4	物性測定の基本的操作方法を理解している。	物性測定の基本的操作方法を概ね理解している。	左記に達していない。	
評価項目5	レポート作成法を習得している。	レポート作成法を概ね習得している。	左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	「無機化学」化学実験の基本的操作方法や得られたデータの解析法の習得を目指す。実験操作を通じて、物質の取り扱い方や無機化合物の生成法に関する知識を深める。 「有機化学」カフェインなどの身近な物質をはじめ、有機化学で学項目に関連した物質の合成・精製・分析を行なう。レポートの作成・プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 「生物化学」各種細胞、微生物を観察し、微生物培養法の基礎実験を行なう。また、代表的な生体成分の検出・定量実験を行なう。 ○関連する科目：物質工学実験(分析)（3学年履修）、材料化学実験（4学年履修）、応用生物化学実験(4学年履修), 物質工学実験(物化)(4学年後期履修)、創造実験(4学年後期履修)			
授業の進め方・方法	「無機化学」予めフロー・チャートを作成し、実験前にチェックを受ける。実験終了後、設定された課題を理解し、レポート作成する。			
注意点	「無機化学」予めフロー・チャートを確認をうける。 「有機化学」実験前にフロー・チャートを提出し、チェックを受ける。 「生物化学」細胞や微生物を扱うため、化学実験と異なる危険性があるので、注意が必要である。			
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	無機化学 基礎 1	全体説明と注意事項の確認	
	2週	無機化学 基礎 2	安全倫理と放射線に関する事項	
	3週	無機化学 基礎 3	測定値とその取扱いについて	
	4週	無機化学 構造 1	結晶模型による構造解析 1	
	5週	無機化学 構造 2	結晶模型による構造解析 2	
	6週	無機化学 構造 3	剛体球を用いた空間充填	
	7週	無機化学 化学反応 1	実験器具の配布と取扱説明	
	8週	無機化学 化学反応 2	亜鉛から硫酸亜鉛	
2ndQ	9週	無機化学 化学反応 3	アルミニウムからミョウバンの作製	
	10週	無機化学 化学反応 4	ヨウ化カリウムの作製	
	11週	無機化学 化学反応 5	顔料の製造	
	12週	無機化学 呈色反応 1	硫酸チタンの呈色反応	
	13週	無機化学 呈色反応 2	トリスオキサラト鉄(Ⅲ) 酸カリウムの合成	
	14週	無機化学 呈色反応 3	トリスオキサラト鉄(Ⅲ) 酸カリウムの青写真への応用	
	15週	無機化学 全体説明 1	器具返却と全体説明	
	16週	無機化学 全体説明 2	レポートに関する説明	
後期	1週	生物化学 1	ガイダンス、微生物培養地の作製	
	2週	生物化学 2	ガイダンス、微生物培養地の作製	
	3週	生物化学 3	細胞成分の検出	
	4週	生物化学 4	微生物の培養	
	5週	生物化学 5	様々な微生物の観察、DNAの抽出と検出	
	6週	有機化学 1	有機化学ガイダンス、器具配布	

	7週	有機化学 2	カフェインの抽出
	8週	有機化学 3	臭化ブチルの合成
4thQ	9週	有機化学 4	ニトロ化、還元（アニリン）、アゾ染料の合成
	10週	有機化学 5	アセトアニリドの合成
	11週	有機化学 6	アジピン酸の合成
	12週	有機化学 7	ナイロン6,6の合成、プレゼン説明
	13週	有機化学 8	実験発表（プレゼンテーション）
	14週	有機化学 9	有機化学テスト
	15週	有機化学 10	実験テストの解説
	16週	全体まとめ	有機化学、生物化学まとめ

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	前1,前2,後6,後14,後15
				事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	前1,前2,後6,後14,後15
				測定と測定値の取り扱いができる。	3	前3,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	前3,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	前3,前16,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				ガラス器具の取り扱いができる。	3	前7,前15,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3	前7,前15,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				試薬の調製ができる。	3	前7,前15,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				代表的な気体発生の実験ができる。	3	
				代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
専門的能力	分野別の専門工学	化学・生物系分野	無機化学	結晶の充填構造・充填率・イオン半径比など基本的な計算ができる。	4	前4,前5,前6
				錯体化学で使用される用語(中心原子、配位子、キレート、配位数など)を説明できる。	4	前9,前13,前14
				錯体の命名法の基本を説明できる。	4	前9,前13,前14
				配位数と構造について説明できる。	4	前9,前13,前14
				代表的な錯体の性質(色、磁性等)を説明できる。	4	前9,前13,前14
				代表的な元素の単体と化合物の性質を説明できる。	4	前8,前9,前10
	分野別の中間実験・実習能力	化学・生物系分野【実験・実習能力】	有機化学実験	加熱還流による反応ができる。	4	後7,後8,後10,後11
				蒸留による精製ができる。	4	後7,後8
				吸引ろ過ができる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12
				再結晶による精製ができる。	4	後7,後10,後11
				分液漏斗による抽出ができる。	4	後7,後8,後10
				薄層クロマトグラフィによる反応の追跡ができる。	4	後7

			融点または沸点から生成物の確認と純度の検討ができる。	4	後8,後10,後11
			収率の計算ができる。	4	後7,後8,後9,後10,後11,後12
生物工学実験			光学顕微鏡を取り扱うことができ、生物試料を顕微鏡下で観察することができる。	4	
			滅菌・無菌操作をして、微生物を培養することができる。	4	
			適切な方法や溶媒を用いて、生物試料から目的の生体物質を抽出し、ろ過や遠心分離等の簡単な精製ができる。	4	
			分光分析法を用いて、生体物質を定量することができる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基本的能力	0	0	0	0
専門的能力	40	40	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0